

入学式式辞

満開の桜の後も桃や梨の花が競うように咲き始めました。万物が躍動し始めたまさに春爛漫の本日ここに、学校評議員 田邊 宏 様、米森眞一 様、PTA会長 松浪健一郎様、後援会長 小高吉一 様をはじめ、多数の来賓の皆様にご臨席を賜り、本日ここに、埼玉県立坂戸高等学校、平成25年第43回入学式を盛大に挙げていただけますことは、入学生はもちろん、私たち教職員、在校生にとりまして大きな喜びでございます。ご臨席をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、只今入学を許可されました366名の新入生の皆さん、入学おめでとうでございます。教職員をはじめ、すべての在校生が心より歓迎いたします。皆さんは、本日、本校に入学しましたが、これも皆さん一人ひとりの努力の結果であると同時に、これまで皆さんをいつくしみ育ててくれたご両親をはじめとするご家族、小・中学校の先生方など、多くの方々のご指導とお力添えがあったればこそでもあります。皆さんは、このことをしっかりと心に刻み、常に「感謝の心」をもって高校生活の第一歩を踏み出してください。併せて、新入生の皆さんの入学を心待ちにしている2・3年生とともに、これまでの諸先輩たちが築いてきた本校の歴史と伝統を継承しつつ、新たな息吹を加え、皆さんの力で本校をより一層発展させていただきたいと思っております。

今、我が国は社会の急激なグローバル化を迎えています。これからは我が国の歴史や文化を理解したうえで、国際社会の中でどのように生きるかが問われています。新入生の皆さんは、地域はもとより国際社会で活躍する有為な人材となる資質と能力を十分持っています。その能力を活かすためにも、まずは自らの可能性を信じ、3年間を学業や部活動、学校行事に全力で取り組み、悔いのない有意義な高校生活を送ることを期待しています。

本校への入学の機会に、私から新入生の皆さんに次のことを話しておきたいと思っております。

まず第一に、自分を社会の中で活かすために「志」を持って高校生活を送って欲しいということです。入学時では皆さんの力の差はほとんどありません。しかし、同時にスタートしても、3年間どのような目標を持って過ごすかで大きな差となって行きます。単に学業の面だけでなく、人間として大切な人をいたわる気持ちや責任を果たす心構え、基本的な生活習慣といった心の豊かさや社会生活を送る上で必要な基本的な面で大きな差が生じてくるのです。それは、目標を持って高校生活を送るか否かによって生じる差でもあります。高校時代は、皆さんの将来を方向づける最も重要な時期です。そのため、将来の職業に対するキャリアを具体的にイメージし、志を持って「自分の進路を実現する」ことを目標に高校3年間を送ってほしいと思っております。

“Boys. be ambitious.”「少年よ 大志を抱け」という言葉は、明治時代、札幌農学校の教頭として招聘されたクラーク博士が学生たちとの別れの際に言った言葉として知られていますが、実はその言葉には続きがあります。それは、

“Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be”「それは、自分の能力の最善を尽くし、

自分が人として成すべきことに到達するためにあるものでなければならない」とい意味です。新入生の皆さんは、素晴らしい可能性と限りない能力を秘めています。皆さんは自分の能力を信じ、自分の夢に向かって具体的で大きな目標である志を持ち、日々努力を続けていってもらいたいと思います。

そのためには、「夢をあきらめない」ということです。2008年、サッカーのJ2のカマタマーレ讃岐の監督に就任した車いすの監督の羽中田昌(はちゅうだ まさし)氏は、19歳の時に交通事故で下半身不随の障害者となりましたが、サッカー選手となる自分の夢をあきらめず、26年後にはサッカーJリーグの監督となり、サッカーの指導者としての夢を実現しました。彼は、車いすにも関わらず、スペインの名門バルセロナにコーチ修行に行き、帰国後は高校サッカー部コーチ、解説者、専門誌の執筆、司会者、講演活動などさまざまな経歴を経た後、念願のサッカー指導者となったのです。彼は、「諦めなければ夢は逃げない」「夢は見るものではなく掴むものだ」と語っています。同じくパラリンピック水泳金メダリストの河合純一さんは「夢から逃げ出すことはいつでもできる。けれど夢を追いかけるのは今しかできない」と言っています。2人とも夢を持ち諦めずに追い続け、夢を実現しました。新入生の皆さんも、高校3年間、大きな志を抱き、夢の実現に向け、自分の意思で、学力的にも人間的にも成長することを心より願っています。

第二に、「知識を大切にする」ということです。建築界のノーベル賞といわれる「ブリッカー賞」をはじめ、日本建築学会賞など、数多くの建築賞を受賞している建築家の安藤忠雄さんは、「学生時代は社会に役に立つことばかり勉強する必要はない。社会に出ればいや応なく覚えます。ただ知識や言葉と現実とがつかないのも困ります。自分の考えを話すには自分の価値観がある。価値観を持つには知識が必要です。みなさんは大学で、自分を見つめ直す勉強の機会を持っています。」と、大学教育の意味と知識の習得の必要性を説いています。彼は独学で建築学を修めますが、独学で一番つらかったのは、同じ問題を語り合える同世代の人がいなかったことであると言っています。新入生の皆さんは、高校3年間、知識の習得のために授業を大切に、小・中学校までの「まねる」学習から、予習と復習を行う、自ら主体的に「学ぶ」学習の習得を目指してください。安藤さんは、「運に恵(めぐ)まれました。でも、運というものは夢を持たなければこちらにはできません」とも言っています。新入生の皆さんは、知識の習得は自分の夢の実現につながるということを意識して、家庭学習を怠らず、日々の学習に取り組んでいってもらいたいと思います。

終わりに、保護者の皆様をお願い申し上げます。保護者の皆様と私たち教職員は、今日から、ここにいる新入生の皆さんを「指導し、よりよく育てていく」という共通の目的に取り組むことになりました。そのためには、学校と家庭とが互いに協力しなければ効果を挙げることはできません。保護者の皆様におかれましても、本校の教育方針や指導について、ご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。最後に、新入生の皆さんの高校生活が、輝かしく充実したものとなりますよう心から祈念し式辞といたします。